

平成30年度 第47回企画展

『発掘速報展2018－近年の調査成果と 大宰府史跡発掘50年のあゆみ－』

平成30年 9月11日(火)～12月2日(日)に開催

当館が実施している発掘調査の成果を毎年「発掘速報展」として紹介しています。大宰府発掘調査50年にあたる今年度は、近年調査・報告がなされた遺跡の調査成果を紹介すると共に、トピックとして大宰府史跡発掘のあゆみを写真パネルで展示します。



縄文時代のドングリの集積（下伊良原西の塚遺跡）

夕べのギャラリートーク

平成30年 10月26日(金) 16:30～17:30

当館学芸員が展示解説を行います。（事前申込み不要）

展示室の天井工事に伴い、第1・3展示室については平成30年8月14日(火)～平成31年9月の間閉室する予定です。なお、他の展示室等は通常通り開室しています。また、平成30年11月16日(金)～11月18日(日)の間は臨時休館の予定です。ご利用の皆様には大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。



①伊良原地区の遺跡群(京都郡みやこ町)

時代:旧石器時代~現代

県営伊良原ダムの工事に先立ち行われた伊良原地区の調査では、旧石器時代から現代までの遺跡が見つかりましたが、特に縄文時代(15,000~2,400年前)の集落、鎌倉時代から室町時代(13~16世紀)の集落と墓、江戸時代(17~19世紀)の神社跡が主体で、そのほかにもダム工事の影響範囲に点在するお堂や石塔の調査を実施しました。

②大宰府政庁周辺官衙跡蔵司地区(太宰府市)

時代:奈良~平安時代(8~10世紀)

大宰府政庁跡西側の蔵司の地名が残る丘陵を継続的に調査していますが、昨年度は大型礎石建物SB5000の東側の平坦地に、新たに南北に並ぶ総柱構造の瓦葺きの礎石建物2棟を発見しました。大宰府の財政的機能を司った官衙「蔵司」に関連する施設の一部である可能性が考えられます。

③彼岸田遺跡(筑後市)

時代:室町時代(14~15世紀)

筑後川の支流・花宗川左岸の沖積低地で、掘立柱建物2棟、土坑、埋甕、溝などと二重の溝(堀)で囲まれた居館跡が見つかりました。堀からは、まじないに使われた呪符木札なども出土しました。

④本町遺跡(柳川市)

時代:江戸時代~明治時代(18~19世紀)

柳川市の中心部にある、柳川城の武士の居住区北西端に位置し、柳川藩の中級武士である武家屋敷と御辻門横の牢屋の一部が発見されました。注目される遺構は、井戸の代わりに水を溜めて利用する「溜井」で、屋敷地内から発見されました。

⑤上町遺跡(柳川市)

時代:江戸時代(17~19世紀)

柳川城下町の北端、出橋御門に位置し、近世初期の内外の陶磁器が相当数出土しました。中でも、初期(1610年代)の伊万里や有田、17世紀半ばのVOC(オランダ東インド会社)銘の入る皿など、非常に珍しい陶磁器が出土しました。



堀で囲まれた中世の居館跡(彼岸田遺跡)

九歴名品探訪 vol.7

齋藤秋圃筆 《十二月風俗図絵巻》

齋藤秋圃(1772-1859)は江戸時代に筑前の地で人気を博した絵師で、秋月藩の御抱え絵師を勤めたのち、晩年を太宰府で過ごしました。この絵巻は太宰府で活動していた70歳の時の作品で、それぞれの月の風俗を秋圃らしい軽妙な筆致で鮮やかに描いています。右は8月(旧暦)の放生会の図ですが、籠の中にある2羽の鳩は、「双鳩」とも号した秋圃の隠し落款(サイン)でしょう。左は9月(旧暦)の菊見の図で、2人の人物のうち右が秋圃、左は博多・聖福寺で住持を務め、禅画が人気だった仙厓(1750-1837)だと思われます。仲良く菊を鑑賞する様子に、親しい交友が偲ばれます。



《十二月風俗図絵巻》(絵・齋藤秋圃、賛・麗水舎金生 1巻 紙本着色 卷子装 28.0×1143.0cm)より部分
右・8月(旧暦)の放生会、左・9月(旧暦)の菊見



平成29年7月5日夕刻に発生した九州北部豪雨は、福岡県内の朝倉市、東峰村を中心に大規模な土石流、河川の氾濫による甚大な被害を引き起こし、文化財の被害も発生しました。

被害を受けた文化財のうち、古文書のような紙資料は、濁流に襲われ、水に濡れ汚れた状態になり、ひどく傷んでいます。これを放置するとカビの繁殖や腐敗が進むほか、急激な乾燥により変形を起こす危機にあるため、一刻も早く救出し、迅速な応急的処置が必要となります。

そこで当館では、豪雨災害発生以後、被災地の朝倉市と連携して、古文書の救出や応急的処置を行っています。

救出はまず、人命救助や被災した方々の生活に配慮しながら、被災集落の巡視や、聞き取りにより、被災した古文書の捜索を行いました。発見後、所有者の了解を頂き、一時保管場所に避難させ、ひとまず安全を確保しました。その後、応急的処置のための科学機器がある当館に搬送し、傷みに対する処置を始めました。

処置の方法は、まず、水濡れの状態のまま冷凍庫に入れ、マイナス80°C下で古文書を冷凍保存します。これにより一時的にカビの繁殖や腐敗を防ぐことができます。

次に、形が変わらないよう乾燥させるため、物質の三態のうちの昇華の現象を利用した真空凍結乾燥法による処置を行います。この方法は、フリーズドライとも呼ばれ、私たちの生活の中では、カップラーメンのような食品加工や製薬に

用いられる技術です。専用装置によりフリーズドライされた古文書は、腐敗や変形することなく、災害以前のような状態に近づいていきます。

その後、付着した汚泥を取り除くほか、固着したページの展開、折れやシワを伸ばす、修復処置に入ります。ここまで来ると、ようやくページを開いて、再び読むことができますようになります。

被災地では復興への歩みが一歩ずつ進んでいますが、私たちも古文書の救出や応急的処置をつうじて、朝倉地域の歴史や文化の復興に寄与できるよう、処置を続けていきます。



汚泥の除去作業



フリーズドライに入る古文書

展示紹介 平成30年度 下半期に開催される展覧会

企画展「歴史の宝石箱」ダイジェスト版

会期 12月4日(火)～3月17日(日) 会場 第2・4展示室

第1展示室の常設展「歴史の宝石箱」の展示資料を抜粋して、コンパクトに展示します。

パネル展「世界遺産・沖ノ島」

会期 9月11日(火)～12月9日(日) 会場 文化情報ひろば

美しい写真で沖ノ島と関連遺産群を紹介します。

パネル展「福岡鉄道遺産ものがたり6 平成筑豊鉄道編」

会期 12月11日(火)～3月17日(日) 会場 文化情報ひろば

パネル展「筑紫地区文化財写真展」

会期 3月19日(火)～3月24日(日) 会場 文化情報ひろば

パネル展「保存科学成果展「古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線 2018-2019」

会期 3月26日(火)～6月16日(日) 会場 文化情報ひろば



沖ノ島遠景

